

～首都圏で再発見～おかやま歴史と文化の夕べ

岡山にゆかりのある方々を講師に招き、首都圏在住の皆様にも、岡山県の歴史と文化を紹介します

阪谷朗廬さかたに ろうろ の歩み

— 出会った人々との交流を中心に —

日 時

9・26 [火]

17:30～20:00

定 員 50人

参加費 1,500 円

17:00～ 受付

17:30～ 講演

19:00～ 懇親会（1ドリンク付）

場 所 とっとり・おかやま新橋館

2階催事スペース

講 師 阪谷 綾子氏（阪谷朗廬の玄孫）



講師の紹介

昭和34年東京生まれ。
特定社会保険労務士。
外資系ホテル秘書、外資系
銀行等を経て平成26年、
学校法人興談館・理事長、
平成28年公益財団法人備
中館理事長、現在に至る

東京都港区新橋一丁目11番7号
新橋センタープレイス



阪谷 朗廬（1822-1881）

川上郡九名村（現在の岡山県井原市）に生まれ、幕府代官の手代であった父について大和・大坂に移り、大坂では大塩平八郎に学ぶ。さらに江戸に出て、昌谷精溪・古賀侗庵に学んだ。

帰郷後は、伯父の山鳴大年の援助を受け、桜溪塾を開いて近隣の子弟を教えた。その後、領主である一橋家の代官友山勝次によって開設された郷校「興談館」の初代館長として招かれた。多くの子弟を教育するばかりでなく、久坂玄瑞や渋沢栄一など著名人との交流も多い。

明治元年、芸州鎮撫軍（広島藩）が備中地方に進軍した際も朗廬は広島藩と一橋代官所の仲立ちをした。その後、興談館を甥の坂田警軒に託し、広島藩に招かれる。そして、明治3年に藩主に従い東京へ移り、廃藩置県後は、新政府の役人として仕えた。

朗廬は、新政府に仕えるとともに日本初の学術団体である明六社に儒者として唯一参加し、精力的に活動している。